

例3 [テーマ] 大地の叫びと貧しい人の叫び / [手法] 社会のトピックスを題材に

参照箇所: 『ラウダート・シ』48~52

『見よ、それはきわめてよかった』21~35

教会内外の書籍や記事、ドキュメンタリー、映画などで扱われる時事問題を材料にする時の例です。読書会や勉強会を進めるときにもこのような手法を用いることができるでしょう。



被造物を神からの贈り物として受けたにもかかわらず、わたしたちの不適切な応答がそれらを傷つけています。「大地の叫びと貧しい人々の叫びの双方に耳を傾ける」(『ラウダート・シ』49) ように教皇は呼びかけます。

ふりかえりの材料 (例)

『カトリック新聞』連載
小さなエコの大きな意味
と信仰 (2023/08/20)



YouTube 映画
『The Letter』



世界海洋デー
国連事務総長
メッセージ 2024



『ラウダート・デウム』第1章「地球規模の気候危機」、第5章「ドバイでの COP28 に何を期待すべきか」

個人のふりかえり

ステップ1

- 祈りの雰囲気を保てる場所を選び、沈黙をもって準備します。
- ふりかえりの材料を味わってみましょう。
心に触れた言葉・表現はどんなものですか。それはなぜでしょうか。

ステップ2

- 教皇フランシスコは述べます。「わたしたちのねらいは、情報の蓄積や好奇心の満足ではなく、むしろ、痛みをもって気づくこと、世界に起きていることをあえて自分自身の個人的な苦しみとすること、そして一人ひとりがそれについてなしうることを見付け出すことです」(『ラウダート・シ』19)。
- 改めてふりかえりの材料に触れ、自分事としてふりかえります。どのような味わいがあるでしょうか。またどのように心が動くでしょうか。

➔ 個人のふりかえりのみ行う場合、最後に心から湧いてくる祈りをささげましょう。

分かち合い

ステップ3

- 次のような質問を参考に、ステップ1とステップ2でふりかえったことを分かち合いましょう。
どの言葉が印象的でしたか、それはなぜですか。
「大地の叫び」はわたしの心にどのように届いているでしょうか。
叫びに耳を閉ざしている状態について、どのように感じますか。
自分の生活とどのように関わっていると思いますか。

ステップ4

- 他の人が分かち合ってくれたことを沈黙のうちに味わいます。
- 最後にもう一度沈黙の時間をもった後、祈りをささげましょう。